

International Games Week

～図書館でゲームをする日～

International Games Week (IGW) は、米国図書館協会 (ALA) の呼びかけで2008年から行なわれている国際的な図書館イベントで、「本や図書館員に囲まれてゲームをすることで、さまざまな仲間と交流して親交を深め、知識を共有する」ことを目的とするものである。

2014年ごろから日本からも IGW への参加が見られるようになり、2017年には図書館総合展で「図書館でゲーム部」(都留文科大学・日向良和准教授)によるブースが出展されたほか、公共図書館等で IGW 及び関連のイベントが数多く開催されている。本館では、2016年より IGW に参加を始め、2017年にはヴェリタス祭の展示企画の一つとして11月3日～4日の二日間、ボードゲーム・カードゲームの体験イベントを開催した。

図書館でゲームをする必要性はあるのかと首を傾げる人もいるだろう。だが、よく考えてもらいたいのだが、図書館は本の貸出をするだけの場所ではない。本館にアクティブラーニング室があることから分かるかと思うが、図書館は、その空間を通して、人と人、人と情報・知識が交わる場所でもあるのだ。ゲームを通して他者と交流することや新たな知識・図書との出会いを作り出すことで、教育的な効果を得ることが出来る。例えば、ゲームをする際、ルールを知らない人には、ルールを説明しなければならないが、それにはルールを正しく理解して、それを言語化し、分かりやすく他者に説明する必要がある。そのためには論理的な思考と高いコミュニケーション能力が求められる。また、図書館には多くの資料があり、ゲームを通して興味関心を広げ、関連する図書から知識や教養を豊かにして行くことが可能である。

これからの図書館は、ゲームに限らず様々な視点から図書館の資料と空間を活用して、人と人、人と資料を繋ぐことができる場所となるべきであると考え。今後も引き続き IGW や様々なイベントを企画して知の交流の場を作り、学部学科・学年を超えた学生同士の交流や図書館資料の活用に繋げていければと思う。